

繊毛虫コルポーダの脱シスト：  
シスト壁は能動的な脱シスト液胞の膨張によって破壊される

舟谷 亮二<sup>1</sup>，末友 靖隆<sup>2</sup>，松岡 達臣<sup>1</sup>

(<sup>1</sup>高知大・理・生物科学，<sup>2</sup>岩国市立マイクロ生物館)

**【要旨】** 土壌性繊毛虫 *Colpoda cucullus* では，巨大液胞（脱シスト液胞）の膨張によって物理的にシスト壁最外層（エクトシスト）が破壊されることによって栄養細胞が脱出する。巨大液胞は収縮胞に由来し，その拍動停止後の膨張は高張条件下でも進行し，ATP 合成阻害剤存在下では抑制された。この結果は，脱シスト液胞の膨張が，水の細胞内への受動拡散だけでなく能動拡散によってもたらされることを示唆している。